

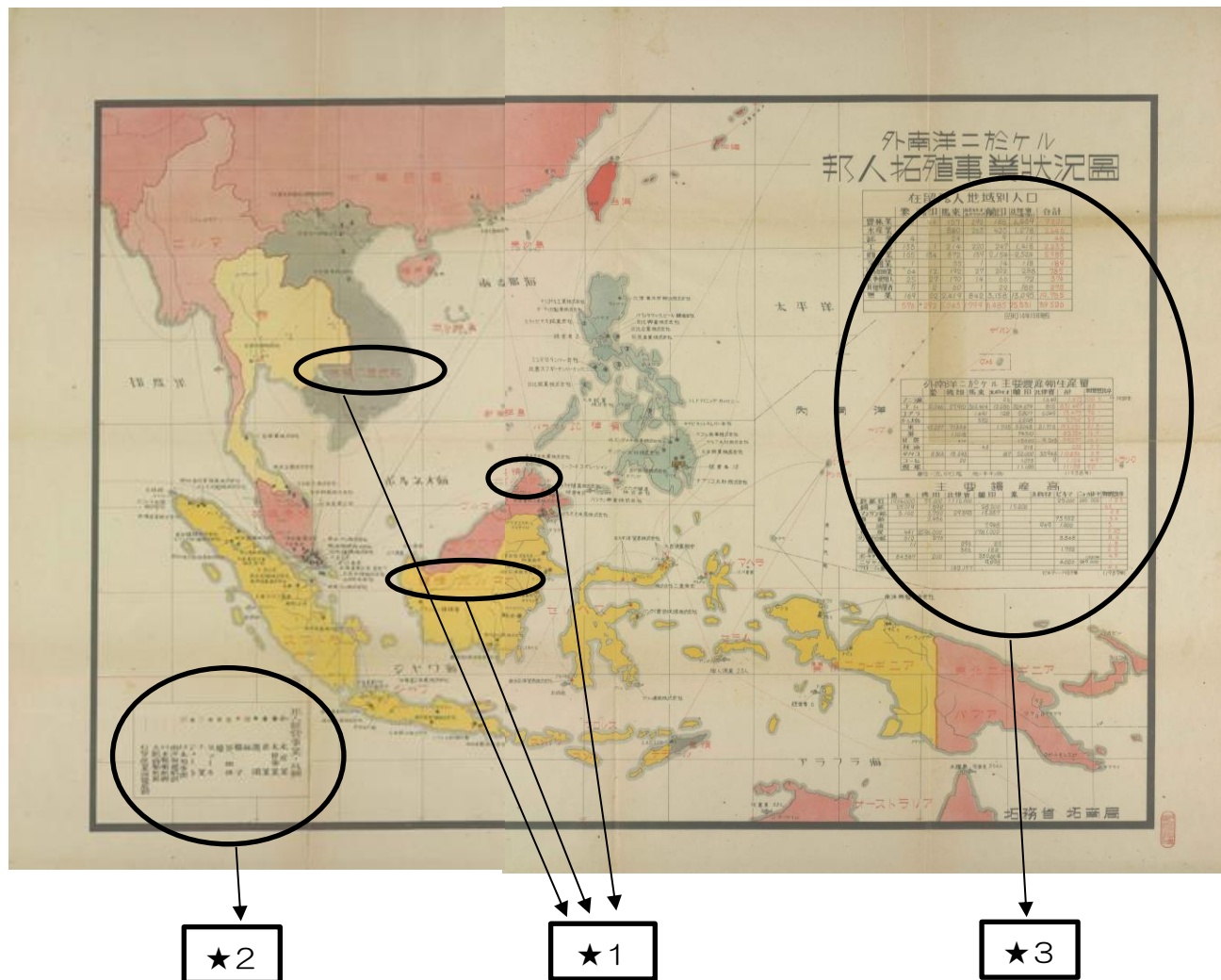
授業で使える当館所蔵地図

No. 29 『外南洋ニ於ケル邦人拓殖事業状況図』

作成年：1939（昭和14）年

サイズ：71×102cm

作者：拓務省拓南局（発行）



【解説】

1939年に拓務省拓南局によって作製された東南アジア近辺の地図である。本地図には、欧米諸国が東南アジアの国々を支配していた様子が「○領・・・」と記載されている。また、これらの国々の諸産業の情報や日本との関わりが記載されている点が大きな特徴であり、当時の日本にとって、戦略的に、東南アジアが重要な地域であったことが分かる。この地図が作製されてから1年後、日本はフランス領インドシナに進出。さらに翌年、太平洋戦争を開始して東南アジア各地にも軍隊を送り、イギリス・フランス・オランダなどの国と戦争をすることとなった。日本が東南アジアに進出する意味を追究する上で、大変興味深い資料である。

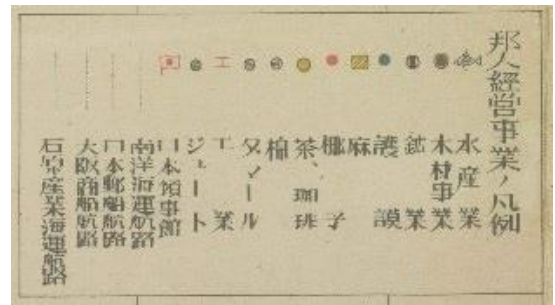
★1 当時の国名

太平洋戦争開始直前、東南アジアの国々が欧米諸国に植民地支配されていたことが分かる。「○領・・・」と記載されており、マレーシアとシンガポール、パプアニューギニアをイギリスが支配、インドシナ半島をフランスが支配、インドネシアをオランダが支配していたことが分かる。また、ビルマ（現ミャンマー）、タイ、フィリピン、中華民国などは独立国であったことも分かる。

※地図上の記載例 英領馬來（イギリス領マレーシア） 蘭領ボルネオ（オランダ領インドネシア）
佛領印度支那（フランス領ベトナム、ラオス、カンボジア）

★2 邦人経営事業ノ凡例

太平洋戦争開始直前、日本人が経営する企業が東南アジア各地に進出している様子が分かる。現在のインドネシアには木材事業を中心とした企業が進出、マレーシアやシンガポールにはゴム関連の企業が進出、フィリピンには、30ほどの企業が進出しており鉱業関連の企業が複数見られる。



★3 在留邦人地域別人口 主要農産物生産量 主要鉱山高

在留邦人地域別人口では、当時、東南アジア各地で生活していた日本人の数と職業について記載されている。主要農産物生産量では、ゴム、米、タバコなどの国ごとの生産量が記載されている。主要鉱山高では、鉄鉱石、原油、石炭などの主要資源の生産高が記載されている。人口の資料からはフィリピンとのつながりの深さが分かり、農産物生産量や鉱山高の資料からは、マレーシアやシンガポール、インドネシアが日本にとって有益な地域と成り得たことを伺うことができる。

	暹	佛印	馬來	比島 オーストラリア ニュージーランド	蘭印	比領 フィリピン	合計
農林業	10	14	157	292	188	6,539	7,200
水産業			880	263	425	1,078	2,646
鉱業	4		24		9	11	48
工業	133	1	214	220	247	1,418	2,233
商業	165	134	872	139	2,154	2,524	5,988
交通業	1		55	1	14	118	189
公務務員	64	12	192	27	202	288	785
家事使用人	25	27	170	14	66	72	374
其他労働者	5	2	60	1	22	188	278
無業	169	02	2,419	842	3,158	13,095	19,785
	576	292	5,043	1,799	6,485	25,331	39,526

昭和14年10月現在

【用語について】

・拓務省

1929（昭和4）年から1942（昭和17）年にかけて存在した省である。日本の植民地の統治事務・監督のほか、南満州鉄道・東洋拓殖の業務監督、海外移民業務を担当した。

【利用の例】

- 太平洋戦争開始直前の東南アジアの国々が、欧米諸国の支配を受けていたことを確認できる。
 - 現在のマレーシアやシンガポール、パプアニューギニアがイギリス領、ラオスやカンボジア、ベトナム（インドシナ半島）がフランス領、インドネシアの大半がオランダ領であったことを確認し、そのことを当時の日本が明確に認識していたことを押さえたい。また、台湾は日本領となっており、沖縄県と同色で表されている。
- 太平洋戦争開始直前の日本と東南アジアの国々との関係を知ることができる。
 - 当時から東南アジアの国々とのつながりがあり、特に、「在留邦人地域別人口」や「邦人経営事業」の資料から、在留邦人の人口や邦人が経営する事業所の数に着目することで、フィリピン、マレーシア、インドネシアとのつながりの深さを読み取るようにしたい。
- 東南アジアの国々の「主要農産物の生産量」と「主要鉱山高」が分かる。
 - 2つの資料から、イギリス領のマレーシア・シンガポールでは鉄鉱石やボーキサイトが産出されており、オランダ領のインドネシアでは原油や石炭が産出されていることが分かる。また、フランス領インドシナでは、鉄鉱石や石炭が産出されており、当時の日本にとって、資源を確保するという意味で、とても重要な地域であったことが分かる。
- 日本が太平洋戦争を開始する時に、東南アジアにも進出した理由を考えることができる。
 - 本地図が作製されてから2年後、日本は太平洋戦争を開始する。この事実を知った多くの児童は、「日中戦争に加えてアメリカと戦うことだけでも困難であるはずなのに、どうして、イギリスやオランダなどとも戦争を始めるのだろう。到底勝ち目がないのではないだろうか。」と考える。その時に、本地図を追究資料に用いることで、「東南アジアの国々を日本の領土にすることで、石油などの資源を確保することができるので戦いが継続できる。だから、占領することが必要であった。」という、当時の日本軍部の考えをとらえさせることができる。